

牛久：学校周辺に見る自然

第21号 牛久自然観察の森

2018年5月30日発行

＜ 樹液に集まる虫たち ～パート2＞

昨年^{つゆ}は、梅雨の晴れ間の6/29午後に歩いた牛久自然観察の森で、コナラの樹液にルリタテハやカブトムシ、モンズズメバチなど、たくさんの昆虫^{こんちゆう}が集まっているのを観察しました（29年度第10号）。それより1ヶ月以上早いですが、今年^{じゆえき}は5/17午後に同じ木で、チョウ数種類とモンズズメバチ、ハ工数種類が樹液を吸っているのを観察しました。



コナラの樹液^{じゆえき}を吸うアカボシゴマダラ、サトキマダラヒカゲ、コジャノメ(上左・下右)。ゴマダラチョウ、サトキマダラヒカゲ、モンズズメバチ(上中・右)。アカボシゴマダラ、サトキマダラヒカゲ、モンズズメバチ(下左)。

一番数が多かったチョウは、サトキマダラヒカゲ。その他ではアカボシゴマダラ（27年10号、29年8号）、ゴマダラチョウ、コジャノメ。いずれも、タテハチョウ科。昨年^{じゆえき}のルリタテハもそうですが、樹液を吸うものが多い科です。



コナラの樹液を吸うゴマダラチョウ(上2枚)と、「要注意外来生物」のアカボシゴマダラ(下2枚)。

それぞれ、大きくしてみました。まず、ゴマダラチョウ。幼虫が同じエノキの葉を食べる、次のアカボシゴマダラとの競争が心配されています。そのアカボシゴマダラ。日本の奄美諸島に分布するのと少し違いがあり、中国大陸から人が持ちこみ放したのが広がったのだそうで、「要注意外来生物」に指定されています。すでに、牛久市内でもふつうに見られるチョウになってしまいました。



コナラの樹液を吸うサトキマダラヒカゲとモンズメバチ(左)。モンズメバチ(右上)。ゴマダラチョウとハエ(右下)。

サトキマダラヒカゲは、時々ズメバチに追いはられながら、多いときには10頭近く集まっていた。ズメバチは2頭いましたが、どちらもモンズメバチでした。【理科支援員：宮内】